

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 総務文教分科会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 小川
日 時	令和7年8月7日（金）	開 議	午後 2時00分
		閉 議	午後 4時40分
出席委員	◎竹内 ○三上 原野 小林 浅田 山本 松山 福井		
執行機関出席者			
事務局	吉田事務局長、小川次長		
傍聴	<input checked="" type="checkbox"/> 可・否	市民 1名	報道関係者 0名 議員 0名 ()

会 議 の 概 要

開議 14:00～

1 開議

2 案件

○事務事業評価対象事業の選定

<竹内委員長>

事務事業評価対象事業の選定について、各委員から候補を挙げていただいた。各委員、抽出理由等意見をお願いします。

【原野委員、松山委員、山本委員、福井委員、三上副委員長、竹内委員長から、別添「R7総務文教分科会 決算事務事業評価対象事業候補リスト（委員ごと）」に基づき、選定事業及び選定理由を説明】

<竹内委員長>

それぞれの選定理由を確認した上で、所管ごとに並び替えたリストがあるので、それも参考に選考を願う。選考方法について意見はあるか。

<三上副委員長>

昨年度も同じ項目なので、重複は避けるとの見方もあるが、特に重要な事業なので毎年追って評価する必要があるものについては、事業選定しても構わないと思う。

<竹内委員長>

教育に偏りがちではあると思うが、そのことも気にせずに事業選定しても構わないと思う。

<福井委員>

令和5年度の決算から見て、なお、より深く検討できる事業があってもよいと思う。不登校については課題意識があり、選定していくべきだと考える。

<福井委員>

各委員から候補について説明を受けたので、各事業候補について一つずつ他の委員の

意見を聞いてから、選定する方が分かりやすいと思う。今すぐに質問を受け付ければ、一気に意見が出て収集がつかなくなるのではないか。

<竹内委員長>

所管ごとのリストから、一番上の事業から順に皆さんへ意見を伺うことにする。デジタルマーケティングについて意見を願う。

<福井委員>

デジタルマーケティング自体の質疑もしてきたが指標がない。ふるさと納税もデジタルマーケティングを使って全国に宣伝したので、これだけ寄付が集まったという指標がないので、指標を聞くかどうか。

<松山委員>

効果を図るものがない。効果を図るためにどこに費用をかければ効果が上がるかという指標がないので、ふるさと納税など事務事業評価に選定することについての委員長の意見を伺いたい。

<竹内委員長>

指標がないので分かりづらいと思われる。質疑をしても時間が短く、十分な質疑が出来なかったことから、再度じっくりと質疑をしたいということから上がってきたものと見受けられる。後は、亀岡市の全体の流れとして、今年が市制70周年記念、来年が全国都市緑化フェアと大きなイベントを抱えているのでシティプロモーションとか広報のあり方を問うこともあった。それぞれ次年度に向けた取組も知りたいということもある。

<福井委員>

事務事業評価をするのがやりにくいのではないかと。現実的には事務事業評価としての議論になるかどうか分からない。

<松山委員>

指標とか効果測定のベースがあるのであれば、質疑をしてもいいのではないかと。

<竹内委員長>

次にふるさと力向上経費について意見を願う。

<松山委員>

ふるさと納税のポータルサイトでのセールスやPRで寄付金が変わってくることを聞いたことがあるので、返礼品にどれだけの費用をかければ、寄付金が増えるのか、基準の有無を聞くことができると思う。ふるさと力向上基金の繰入金が増えている。いつまでも制度があると誰しも思っていないが、どれだけ財政的な効果をもたらしているのか、総務文教分科会で共有してもいいのではないかと考えた。

<三上副委員長>

デジタルマーケティングは去年の決算資料では、広告料とその他業務委託料がある。効果測定モデルを構築したと書いてある。ふるさと納税について、業務委託だけでなくこの費用を使ってどれだけの寄付金が集まるのか効果指標を持っているのではないかとと思われる。事務事業評価に値するかという議論はあるが、全体を知っておきたいということがある。

<竹内委員長>

次にSDGs推進経費について意見を願う。

<福井委員>

SDGs推進は、国民の認知度がまだまだ低い。市が取り組んで5年になる。当初は職員にも取り組ませるということから国の交付金を受け取った。SDGsとは象徴的なものであって、市長と所管部課も取り組んでいるとの前提があると思う。

<小林委員>

目標設定は霧の芸術祭ではゴールを何にして目指すのか分かりにくいというのが市民の意識であると思う。

<福井委員>

霧の芸術祭もやっていますと言うけど、SDGsも何をやっていますとも言わない。SDGs 未来都市の交付金を取るために何とか事業を形作った。以後は霧の芸術祭と引っ付けて続けていることになっていると思う。SDGsは推進しているけど、具体的に何をやったのか把握していないと思われる。

<竹内委員長>

令和6年度はSDGs創生課であったのが、企画調整課の係になって縮小しているのではないか。今後どうしていくのか。

<福井委員>

類推ではあるが、SDGsはどこが所管か分かりやすくするために市の中からやりますということから課を立ち上げた。それなりにできたということで係になったのだと思う。こんなことしましたと誰も言わないので意識が浸透していないと思う。

<山本委員>

庁舎内では最近ではマークをつけて明確化している。これは当てはまるけどもどれだけの効果を上げてこういう成果になったと追いかけたものがないので、成果は何かわからない。

<福井委員>

山本委員の言うことは正論ではあるが、逆にSDGsを取り組んだと明確にしなければならぬという理屈も根拠もないと思う。SDGs創生課で庁舎内で出来ているのであれば、市外に発信するべきかもしれない。

<小林委員>

発信すべきだと考える。

<松山委員>

霧の芸術祭でSDGsを取り組んでいただいているとすれば、「霧の芸術祭」ではなく、「亀岡SDGs祭」と看板を掲げてやらないと市民に意識してもらえないのかと感じる。

<竹内委員長>

当初予算の主要事務事業での新聞記者報道用の資料にはSDGsで何番に該当するのかマークを入れているが、決算委員会ではその何番をどのように達成したのかという主管課の説明がない。

<福井委員>

そもそも決算特別委員会総務文教分科会でSDGsの達成したことを報告してもらわないといけないものか。市民のSDGsが達成できたかどうかを認識しないといけないものなのか。

<竹内委員長>

情報化推進経費について意見を願う。

<福井委員>

スマホセミナーだけをやって、情報化推進をしたと言い切るのはおかしい。高齢者はスマホにどんどん取り残される。行政のやり方はスマホセミナーをやるのが推進になるのかどうか。

<松山委員>

市の職員の業務改善が最優先であり、市民の行政手続きを円滑に進めるためのDX化

が必要であろうと思う。業務改善を行うために市民にも協力してもらうための情報化推進の事業に費用をかけるべきではあるが、限られた財源の中では積極的に費用をかけることも難しいだろうと思う。

<三上副委員長>

情報化推進計画策定の際に、職員の業務改善や時間短縮とにより、他にやることのできるの計画になっているが、市民から見た情報化推進計画が何もないと指摘したことがある。事務事業評価で市民からみた情報化推進計画がないので、ダメだとは指摘できるものではない。今後の課題として、市民向けの情報化推進計画を提案するものであって、順位的には低くていい。

<竹内委員長>

文化振興経費のかめおか霧の芸術祭に係る経費について意見を願う。

<原野議員>

過去の事務事業評価では文化振興に特化すること、規模を縮小することになっていたと思う。地域課題の解決に向けた素晴らしい目的であると思った。実行委員会でも6年間積み上げてきた。目的を変えてしまうと積み上げてきたものがなくなること、また市民に浸透してきていないことから何をもちて評価するのか分からない。

<竹内委員長>

亀岡ジャズフェスティバルの補助金について意見を願う。

<松山委員>

決算の質疑で聞くことにする。経済効果も聞きたい。

<竹内委員長>

市民団体が自主的な活動をしてきたのに、なぜ市が補助金を出す必要があるのか、市長質疑まで上げていた項目であった。予算の積算根拠を聞いてこなかったことも今回の委員会で聞いてもいいと思う。

<竹内委員長>

交流会館交流経費、自治会館経費について意見を願う。

—全員意見無し—

<竹内委員長>

引き続き、コミュニティ推進経費の市政協力業務委託料について意見を願う。

<三上副委員長>

自治会で市政協力業務委託料がどのように使われているのか。

<松山委員>

自治会が委託を受けているのに実際は委託事業をやっていない自治会もあるのか。

<三上副委員長>

それぞれの自治会でどういうふうに使われているのかを聞いたことがないので、取り上げてもいいのではないかと思う。

<福井委員>

賛成である。

<山本委員>

自治会員報酬があって、そこからプラスで委託料があるということか。

<福井委員>

自治委員の報酬は自治会の報酬と別である。

<山本委員>

自治会長は自治委員として報酬を受け取っているのか。

<福井委員>

必ずしも自治委員は自治会長とイコールではない。

<山本委員>

自治会によって使う費目がまちまちで、認められる費目と認められない費目と異なることがあるのか。

<福井委員>

自治会で使いやすいのは、事務委託料で配布物の手配などが挙げられる。市政協力委託料については、一定のマニュアルがあってもいいと思う。

<三上副委員長>

先ほどは事務委託料について取り上げて話をしたつもりであったが、自治委員報酬や自治会に関わる亀岡市から支出される費用が関連すると思われ、先ほどは曖昧な表現をしていたかもしれない。

<小林委員>

市全体と言われると分からないことが多い。自治委員報酬は直接本人に支払われるので別である。市政協力委託料は自治会で明確に会計決算をされているとみている。配布物は全部領収証を必ず取っていたので、適正に会計が執行されている。

<竹内委員長>

不登校対策経費について意見を願う。

<三上副委員長>

去年もやったからということで省かなくてもいい。理事者側や教育委員会がどのような長期的展望を持っているのかを聞くのもいい。短期的に見て、対策をした結果がどうであったかを聞くのもいい。

<竹内委員長>

教育長の見解も聞きたいと思っていたので、一般質問に取り上げてもいいと思う。

<小林委員>

スクールロイヤー制度が去年に新たにできたので、そこに集中して聞くのもいい。

<福井委員>

スクールロイヤー制度は1年目であるので聞いてもいいが、実績が何件あったと言われて終わりにならないか。昨年度の相談事例を聞いたら、期間が短いのでありませんでしたと返答されてしまうと後が続かないのではないか。

<松山委員>

スクールロイヤー制度を活用した学校があったと聞いているので、活用した状況を聞き出せると思う。

<竹内委員長>

通学安全対策経費について意見を願う。

<三上副委員長>

お金の使い方がどうなのかという面で職員と児童の安全を守るためには本当にこれでいいのかという議論はあるが、事務事業評価では順位を低くしてもらっても構わない。次の予算に向けて質疑をしてもいい。

<福井委員>

事務事業評価で0点にして、次の予算で何とかするように方向性を付けることもできるのではないか。

<松山委員>

現時点では事務事業評価は保留にしておけばいいのでは。

<竹内委員長>

情報教育推進経費について意見を願う。

<原野議員>

自分で上げたが事務事業評価になじまないと思うので、削除を願う。

<竹内委員長>

二十歳式典経費について意見を願う。サンガスタジアムで毎年開催されるが天候に左右されやすいことと京都府施設ではなく、亀岡市の施設を使わないのか。毎回、社会教育課から実行委員会の委員の意見を尊重して会場を決めるという返答がいつも返ってくる。

<三上副委員長>

実行委員会の意見を尊重するとすぐ言われるが、事務局から問われる委員は、式典の当日に対象者が自分で着付けなどの準備にどれだけかかるのか全く臨場感がわからない中で聞かれるので、その場の返答が正しいとは限らないと思う。

<原野委員>

開会時間について、触れたことがある。着付けをする人がだんだん少なくなってきているので、対象者の負担が増えることも視野に入れたほうがいい。

<三上副委員長>

18歳で参政権を得られることは大きいことである。20歳では酒とたばこが自分で判断ができるようになる。そのことで式典をいつまでもやるのか、経済的に着物を着ることができない人が平服で式典に参加できるかと言われると周りが着飾る人が多いと行きにくい。式典を続けることは、みんなが望んでいるのか。

<竹内委員長>

かめおか児童クラブ運営経費について意見を願う。保護者と支援員との関係が悪いケースも多いと伺う。

<原野委員>

夜勤や朝早い時に子どもを預かってもらえるところが必要であることを認識している。

<松山委員>

保護者のニーズをきちんととらえた制度設計が必要ではないかと思う。夜7時まで延長したという量の部分があると今度は質の部分の検証も必要だと思う。

<山本委員>

子どもが行きたがらないケースを多く見受ける。支援員さんと保護者と子どもとの関係が悪化することが原因であり、子どもに笑顔がなくなってきていることを見受けられる。子どもファーストの視点に立って、制度設計の見直しが必要ではないかと思う。

<松山委員>

保護者が学校に相談しても、学校が社会教育課へ相談するように促すだけでは解決にならないので相談窓口の整備も大事だと思う。

<山本委員>

保護者からも相談窓口はどこなのか聞かれたことがあるが、寄り添って相談に乗ってくれる機関がないのが現状である。

<竹内委員長>

私も相談を受けたことがある。支援員と相性が合わないので行けない子どもができていることを知っている。きちんとアンケートなどで実態調査が必要である。

<山本委員>

アンケートの中身も把握する必要があると思う。2年に1度のアンケート実施ということで令和6年度は実施せず、今年は秋に実施するというのでアンケート項目を事前に確認できればと思う。

<竹内委員長>

学校給食物価高騰助成金について意見を願う。

<三上副委員長>

緊急臨時的な取組で恒常的な取組ではない。値上げをせずに亀岡市が踏ん張って助成していることは評価できる。その中身を問うている。恒常的な経費ではないということを含まないといけない。

<竹内委員長>

項目抽出に入る。

<福井委員>

一人3票を与えて抽出事業を5以上上げて、その事業の中から多い事業3件を事務事業評価に選定することを提案する。

<竹内委員長>

福井委員の提案に沿って、事務事業評価を抽出することでよいか。

—全員了—

<竹内委員長>

それでは準備も必要なため、10分間の休憩にする。

16:00

<休憩>

<竹内委員長>

16:10

休憩前に引き続き、会議を再開する。これから事務事業評価の項目を抽出する。

<三上副委員長>

項目は以下の9項目が上げられる。

- | | | |
|-------------------|---------------|---------------|
| (1) 広報経費 | (2) ふるさと力向上経費 | (3) SDGs推進経費 |
| (4) 霧の芸術祭 | (5) 市政協力業務委託料 | (6) いじめ防止対策経費 |
| (7) 通学安全対策経費 | (8) 二十歳式典経費 | |
| (9) かめおか児童クラブ運営経費 | | |

委員一人3票を持って、多い項目を事務事業評価とする。

<竹内委員長>

それでは順番に項目を言うので挙手を願う。

- | | | | |
|-------------------|----|---------------|----|
| (1) 広報経費 | 0票 | (2) ふるさと力向上経費 | 3票 |
| (3) SDGs推進経費 | 2票 | (4) 霧の芸術祭 | 0票 |
| (5) 市政協力業務委託料 | 6票 | (6) いじめ防止対策経費 | 1票 |
| (7) 通学安全対策経費 | 0票 | (8) 二十歳式典経費 | 3票 |
| (9) かめおか児童クラブ運営経費 | 6票 | | |

<三上副委員長>

多数決の結果、市政協力業務委託料が6票、かめおか児童クラブ運営経費が6票で最も多い。次いで、ふるさと力向上経費が3票、二十歳式典経費が3票となる。

それぞれ同数につき、この4つを項目に上げたいがみなさんいかがか。

—全員了—

<竹内委員長>

それではこの4項目を事務事業評価に選定することにする。

3 その他

<竹内委員長>

- (1) 次回は、8月27日(水)午前10時から決算内容について総務文教分科会勉強会を開催する。
- (2) 10月の総務文教常任委員会定例会の日程も決めたいと思う。みなさんの都合を伺う。では、次回の総務文教常任委員会の日程は、10月31日(金)午前10時から開催する。

以上を持って、散会する。

散会 ~ 16:40